

# 駒沢大学高等学校同窓会 二十五周年記念式典開催!

## 同窓新報

題字・上野慧賢先生

発行所 東京都世田谷区  
上野一丁目  
駒沢大学高等学校  
同窓会  
TEL (700)6133(代)

来たる六月十九日(土)午後三時より、渋谷・東急文化会館八階ゴールデンホールにおきまして、駒沢大学高等学校同窓会二十五周年記念式典を開催致します。

駒沢大学高等学校同窓会が設立されて、早や二十五年の歳月を経過しました。この間には約八千有余名に及ぶ卒業生が世に出、それぞれの分野に於て駒沢大学高等学校の卒業生であるという誇りをもち、活躍をしているわけですから、その卒業生一人一人にとつて、駒大高校で過ごした三年間は、紛れもなく多感な青春の時期であり、その時代の思い出の一つ一つが頭の中に、あるいは心の片隅に間違いなく存在している筈です。ある卒業生にとつては先生に叱られてばかりいたことが思い出であったり、又ある卒業生にとつては勉学に励んでばかりいたことが思い出として残っているか

もしれません。「とにかくあの頃が懐かしい」と思う卒業生もいるかも知れません。先生に対する思い出で一杯の人もあるでしょう。それぞれの心に様々の思い出が秘められていて、思いあはれぬ思い出を語り合つて下さい。二十五周年の記念の為に、どしどし仲間を呼び集めて話の輪を、思い出の輪を広げて駒沢大学高等学校同窓会二十五周年記念式典にふさわしい盛大なものにしようではありませんか。

(尚、当日は上野慧賢校長先生が「研究紀要」や「同窓新報」に「研究紀要」などに発表された論文を一冊にまとめた「上野慧賢先生論文集」が二十五周年記念文集を皆様におわけ致します。)

### 二十五周年記念式典

日時 昭和五十一年六月十九日(土)  
午後三時より  
場所 東急文化会館内  
東急ゴールデンホール八階  
会費 二千元

当日上野慧賢先生の論文集「永遠の反省」及び記念誌をおわたし致します。  
同封のハガキで五月三十日迄に出欠をお知らせ下さい。

## 新しい教頭に 上野敏雄先生



昭和三十七年十二月より十余年、本校の教頭職につかわれていた大山興隆先生が、この度ハワイ曹洞宗別院正法寺住職として赴任することになり、

和五十五年九月に、本校に奉職され現在に至っております。  
上野先生が奉職されました時、本校は渋谷に校舎を構えており、その後昭和三十七年一月には駒沢大学内校舎に移転、昭和四十四年八月末には現在の用賀校舎へ移転という転換期であり、生徒数・教員数の上にも、年ごとに発展を遂げている時でありました。そのような時期に教育者として活躍されてきたわけですから、駒沢大学高等学校の躍進の為に、又教育的向上の為に、上野敏雄新教頭の尽力に、我々同窓生・教職員一同期待を寄せたいと思っております。

## 同窓会二十五周年 記念行事を迎えて

白浜正幸

今年同窓会の二十五周年記念行事が行なわれることになった。この新聞はその前哨戦として発行し、大いに宣伝しようというものである。

同窓会員は今年の卒業生で八二一五名となった。内訳は普通科七四〇五名、商業科は昭和三十七年発足の八一〇名である。駒大高校は今年開校二十九周年を迎え、名実共に軌道に乗って来たようである。私は開校二年目に奉職したので二十八年目になる。よくも飽きずに頑張っているものだ、われながら感心している。幸か不幸か本校の発展過程が苦難に満ち興味深い過去だったことや、生徒

## 上野校長先生 御論文集

## 「永遠の反省」 発行

同窓会二十五周年記念事業の一環として、編集をすすめてまいりました上野慧賢先生の論文集「永遠の反省」が昭和五十一年六月十九日に発行の運びとなりました。  
「同窓生の教育の基本」が那辺にあつたかをたずねると、校長先生の御論

文の中にすべて述べ尽されていくといえる。今私共同窓生がこの論文を読み返してみるときは、先生の教育の真髄を改めて、認識し先生のお教えに対する私の理解がいかに浅かったかを痛感させられるであろう。本書に収録したものは、

とくに先生の思想を顕著に伝えるものだけを選んだ。先生は一つ一つに加筆されているが古いものは昔をしのぶ意味で、また先生の思想の原点を知る意味で、なるべくそのままの内容にしていた。書名「永遠の反省」は先生の命名であり自筆である。……編集後記より抜粋。

手として尊敬している方もある位である。  
昭和二十七年二月には校舎が失火のため殆んど焼けたので、木造二階建ての校舎であることなど、開校九年目にして一期生と同数の一五〇余名の新入生を迎えることができた。この時、昭和三十一年四月、感慨無量であった。これからは生徒数がふえ着実にふえ続け現在に至つたのである。そして私の生徒指導の奮戦が展開され白熱化して行くのである。紙面の都合でこれくらいで筆を折らなければならぬのは残念である。しかし六月十九日の同窓会二十五周年記念行事の時配布される記念誌に、これら裏話が載るので、是非参加して読んで頂きたい。卒業以来学校にも同窓会行事に顔を一回も見せない人が大多数であることは淋しい。今度の行事にはみんなで参集して昔話に花を咲かせたいものである。

# 駒沢大学高等学校

## 柔道部閑話

青木義雄

世界どこの国についてもその独自の歴史があるように、駒沢大学高等学校に於いても長い伝統と特有の歴史がある。その駒沢大学高等学校に於て柔道部は現在、部員数三十数名をもって構成され、昭和五十年八月東京会場でのインターハイには二年生の神名洋太郎君が個人の部でみごと出場し、優秀な成績を収めている。そこで駒沢大学高等学校柔道部閑話と題しては、駒沢大学高等学校に柔道部が設立されてからの歴史の経過について若干のべさせて頂く。

### 駒大高校だより

浦敏之

「調息」「調意」の意味、「行学一如」の意味を論じて下さされた。この意味からすれば、駒沢大学高等学校の心髄の真の担い手は駒沢大学高等学校柔道部であるかも知れない。と云うのは設立後間もなく顧問に就任された坪井久先生はさきのこの意を深く研究され、さらには柔道の修業という実践を通して、広い真の学問研究への道、態度を論じてくれたものと考えられる。つまりこの考え方も方にもづくその方法論は現在まで変わりになく、その証としてのインターハイ出場選手を十年目にして誕生せしめたのである。これは偶然でもなく、また単なる歳月が生んだものでもない、まぎれもなく真の修業者として心を求めた結果であり、その技をもった部員を絶えず東京都で上位を示めさせた結果であると確信する。青木先生が、この精神を誇りに思い、OB会が

獅子吼会と命名され、道場外から後輩を見つめ、そして伝統を築こうとしている。獅子吼会と申せば、昨年(昭和五十年九月十四日)には関係諸兄弟の協力ならびに上野慧賢校長先生はじめ、多数の先生方の出席を得て、無事区立玉川区民会館にて

獅子吼会創立十周年記念式典を開催することができ、心より感謝する次第であります。またこの十周年記念を機にOB会としての奨学金制度を設け、後輩育成の拡充を計った次第である。

昭和五十年五月二十六日(月曜日)午後六時より三軒茶屋「富士」において、第二回幹事総会が開催されました。

〇会長挨拶 会長秋山彰三氏(一期)「新同窓会々員五百六十四名の加入があった。今後の同窓会活動の中心となつてほしい」との発言。

〇新顧問挨拶 菊地祐吾、幸前芳孝の両先生を紹介。

〇二十年勤続表彰 高橋馨(数学、地学)、末永光司(美術)の各先生に同窓会より記念品(春慶

とわりしておきます。まず文化部関係からみてみると吹奏楽部は東京都吹奏楽コンクールに於て二年連続金賞を授賞、囲碁将棋部は昨年にひき続き全国大会に出場、書道部は各種の展覧会に出品し、日本習字学会賞、読売新聞社賞、東京美術文化協会賞、その他を受賞、英語部も英語弁論大会で入賞しています。

〇名譽会長挨拶 上野慧賢名譽会長「学校の現況の説明(内容の向上と部活動の活躍等)同窓会の今後の運営に期待する。」

〇新顧問挨拶 上野敏雄教頭「大山前教頭がアメリカ、ハワイ州の曹洞宗布教総監として栄転、その後任として就任。同窓会の発展は学校の発展であるので今後共よろしくお願いしたい」との発言。

〇閉会の辞、副会長、田上太秀氏(三期)より「五十一年は同窓会二十五年でもあり、五十年度はその基礎をかためていきたい」との発言がありました。

その後懇談会に移り上野先生・顧問の先生方、二十年、十年勤続の先生方および新同窓会員を囲み盛大裡の内に散会した。

〇同窓新報の発行 〇名簿整理(カード) 〇クラス会・OB会の助成

〇二十五周年記念事業の準備 〇昭和五十年度、予算案、日吉明広氏(承認)十九期より説明がありました。

〇新役員選任の件 〇副会長に田上太秀氏(三期) 〇庶務、真間馨氏(二期)

〇その他「五十一年度は同窓会が二十五周年になるので、記念誌を発行したい旨」会長より発言がありました。

〇閉会の辞、副会長、田上太秀氏(三期)より「五十一年は同窓会二十五年でもあり、五十年度はその基礎をかためていきたい」との発言がありました。

その後懇談会に移り上野先生・顧問の先生方、二十年、十年勤続の先生方および新同窓会員を囲み盛大裡の内に散会した。

〇同窓新報の発行 〇名簿整理(カード) 〇クラス会・OB会の助成

〇二十五周年記念事業の準備 〇昭和五十年度、予算案、日吉明広氏(承認)十九期より説明がありました。

〇新役員選任の件 〇副会長に田上太秀氏(三期) 〇庶務、真間馨氏(二期)

〇その他「五十一年度は同窓会が二十五周年になるので、記念誌を発行したい旨」会長より発言がありました。

その後懇談会に移り上野先生・顧問の先生方、二十年、十年勤続の先生方および新同窓会員を囲み盛大裡の内に散会した。

〇同窓新報の発行 〇名簿整理(カード) 〇クラス会・OB会の助成

〇二十五周年記念事業の準備 〇昭和五十年度、予算案、日吉明広氏(承認)十九期より説明がありました。

〇新役員選任の件 〇副会長に田上太秀氏(三期) 〇庶務、真間馨氏(二期)

〇その他「五十一年度は同窓会が二十五周年になるので、記念誌を発行したい旨」会長より発言がありました。

その後懇談会に移り上野先生・顧問の先生方、二十年、十年勤続の先生方および新同窓会員を囲み盛大裡の内に散会した。

〇同窓新報の発行 〇名簿整理(カード) 〇クラス会・OB会の助成

〇二十五周年記念事業の準備 〇昭和五十年度、予算案、日吉明広氏(承認)十九期より説明がありました。

〇新役員選任の件 〇副会長に田上太秀氏(三期) 〇庶務、真間馨氏(二期)

〇その他「五十一年度は同窓会が二十五周年になるので、記念誌を発行したい旨」会長より発言がありました。

その後懇談会に移り上野先生・顧問の先生方、二十年、十年勤続の先生方および新同窓会員を囲み盛大裡の内に散会した。

〇同窓新報の発行 〇名簿整理(カード) 〇クラス会・OB会の助成

〇二十五周年記念事業の準備 〇昭和五十年度、予算案、日吉明広氏(承認)十九期より説明がありました。

〇新役員選任の件 〇副会長に田上太秀氏(三期) 〇庶務、真間馨氏(二期)

〇その他「五十一年度は同窓会が二十五周年になるので、記念誌を発行したい旨」会長より発言がありました。

その後懇談会に移り上野先生・顧問の先生方、二十年、十年勤続の先生方および新同窓会員を囲み盛大裡の内に散会した。

〇同窓新報の発行 〇名簿整理(カード) 〇クラス会・OB会の助成

〇二十五周年記念事業の準備 〇昭和五十年度、予算案、日吉明広氏(承認)十九期より説明がありました。

〇新役員選任の件 〇副会長に田上太秀氏(三期) 〇庶務、真間馨氏(二期)

〇その他「五十一年度は同窓会が二十五周年になるので、記念誌を発行したい旨」会長より発言がありました。

その後懇談会に移り上野先生・顧問の先生方、二十年、十年勤続の先生方および新同窓会員を囲み盛大裡の内に散会した。

〇同窓新報の発行 〇名簿整理(カード) 〇クラス会・OB会の助成

〇二十五周年記念事業の準備 〇昭和五十年度、予算案、日吉明広氏(承認)十九期より説明がありました。

〇新役員選任の件 〇副会長に田上太秀氏(三期) 〇庶務、真間馨氏(二期)

〇その他「五十一年度は同窓会が二十五周年になるので、記念誌を発行したい旨」会長より発言がありました。

その後懇談会に移り上野先生・顧問の先生方、二十年、十年勤続の先生方および新同窓会員を囲み盛大裡の内に散会した。

〇同窓新報の発行 〇名簿整理(カード) 〇クラス会・OB会の助成

〇二十五周年記念事業の準備 〇昭和五十年度、予算案、日吉明広氏(承認)十九期より説明がありました。

〇新役員選任の件 〇副会長に田上太秀氏(三期) 〇庶務、真間馨氏(二期)

〇その他「五十一年度は同窓会が二十五周年になるので、記念誌を発行したい旨」会長より発言がありました。

その後懇談会に移り上野先生・顧問の先生方、二十年、十年勤続の先生方および新同窓会員を囲み盛大裡の内に散会した。

〇同窓新報の発行 〇名簿整理(カード) 〇クラス会・OB会の助成



獅子吼会式典

昭和五十年四月に日本体育大学出身の真間馨氏(二十一期生)が体育教師として本校に就職されました。真間先生は日体大では、バスケットボール部のレギュラー選手として、活躍しました。四月に初めて卒業生の息子が二名本校に入学しました。二期生の石井清繁氏の長男登志夫君と三期生の鳥沢俊寛さんの長男正臣君です。両君共今春そろって二年生になりました。石井君は現在吹奏楽部員として、鳥沢君は宗内生として、それぞれ活躍しています。

兄弟で本校に入學した例は数多くありますが、昨年の四月に初めて卒業生の息子が二名本校に入學しました。二期生の石井清繁氏の長男登志夫君と三期生の鳥沢俊寛さんの長男正臣君です。両君共今春そろって二年生になりました。石井君は現在吹奏楽部員として、鳥沢君は宗内生として、それぞれ活躍しています。

昭和五十年四月に日本体育大学出身の真間馨氏(二十一期生)が体育教師として本校に就職されました。真間先生は日体大では、バスケットボール部のレギュラー選手として、活躍しました。四月に初めて卒業生の息子が二名本校に入學しました。二期生の石井清繁氏の長男登志夫君と三期生の鳥沢俊寛さんの長男正臣君です。両君共今春そろって二年生になりました。石井君は現在吹奏楽部員として、鳥沢君は宗内生として、それぞれ活躍しています。

### 昭和49年度決算

前年度繰越金	5,605,304
特別寄付	10,000
預金利息	261,071
終身会費564×3,000	1,692,000
計	7,568,375

### 昭和50年度予算案

前年度繰越金	4,656,785
預金利息	260,000
終身会費529×3,000	1,587,000
計	6,503,785

### 1. 収入の部

前年度繰越金	5,605,304
特別寄付	10,000
預金利息	261,071
終身会費564×3,000	1,692,000
計	7,568,375

### 2. 支出の部

事務費	50,000	40,695
通信費	20,000	6,110
会議費	400,000	417,425
慶弔費	100,000	185,400
同窓新報発行費	600,000	481,310
クラス会助成費	200,000	73,000
クラブ助成費	500,000	361,000
名簿整理費	400,000	306,650
予備費(寄付金)	1,000,000	1,040,000
小計	3,270,000	2,911,590
預金	4,200,304	4,656,785
計	7,470,304	7,568,375

### 昭和49年度決算

前年度繰越金	5,605,304
特別寄付	10,000
預金利息	261,071
終身会費564×3,000	1,692,000
計	7,568,375

### 昭和50年度予算案

前年度繰越金	4,656,785
預金利息	260,000
終身会費529×3,000	1,587,000
計	6,503,785

### 1. 収入の部

前年度繰越金	5,605,304
特別寄付	10,000
預金利息	261,071
終身会費564×3,000	1,692,000
計	7,568,375

### 2. 支出の部

事務費	50,000	40,695
通信費	20,000	6,110
会議費	400,000	417,425
慶弔費	100,000	185,400
同窓新報発行費	600,000	481,310
クラス会助成費	200,000	73,000
クラブ助成費	500,000	361,000
名簿整理費	400,000	306,650
予備費(寄付金)	1,000,000	1,040,000
小計	3,270,000	2,911,590
預金	4,200,304	4,656,785
計	7,470,304	7,568,375

### 昭和49年度決算

前年度繰越金	5,605,304
特別寄付	10,000
預金利息	261,071
終身会費564×3,000	1,692,000
計	7,568,375

### 昭和50年度予算案

前年度繰越金	4,656,785
預金利息	260,000
終身会費529×3,000	1,587,000
計	6,503,785

### 1. 収入の部

前年度繰越金	5,605,304
特別寄付	10,000
預金利息	261,071
終身会費564×3,000	1,692,000
計	7,568,375

### 2. 支出の部

事務費	50,000	40,695
通信費	20,000	6,110
会議費	400,000	417,425
慶弔費	100,000	185,400
同窓新報発行費	600,000	481,310
クラス会助成費	200,000	73,000
クラブ助成費	500,000	361,000
名簿整理費	400,000	306,650
予備費(寄付金)	1,000,000	1,040,000
小計	3,270,000	2,911,590
預金	4,200,304	4,656,785
計	7,470,304	7,568,375

### 特別会員の移動

退職者	大山興隆(教頭)
	宮沢栄作(体育)
	原山良勤(体育)
	池田魯参(仏教)
	福島忠雄(数学)
	米山則雄(仏教)
	布野児哉(数学)
	田代宗敏(数学)
	神谷麻俊(英語)
就任者	大山定隆(仏教)
	真間馨(体育)
	上脇正次(数学)
	斎藤一教(仏教)
	井沢弘幸(数学)
	石井幸雄(生物)

### クラス会、OB会だより

五月十一日 二十五期A組二瓶先生を囲んで。五月二十五日 二十五期A組和田(実)先生を囲んで。七月五日 十一期A組和野先生を囲んで。七月六日 野球部OB会増田先生を囲んで。八月十七日 二十五期F組伊藤先生を囲んで。十一月一日 二十一期B組浦先生を囲んで。十一月九日 二十五期D組幸前先生を囲んで。十一月二十九日 十三期B組増田先生を囲んで。十二月二十一日 二十四期B組増田先生を囲んで。五月十一日 二十五期A組二瓶先生を囲んで。五月二十五日 二十五期A組和田(実)先生を囲んで。七月五日 十一期A組和野先生を囲んで。七月六日 野球部OB会増田先生を囲んで。八月十七日